

デザイナーズ学生マンション「02/HM」 座談会



株式会社学生情報センターが2020年10月より管理運営を開始するデザイナーズ学生マンション「02/HM(ゼロツーエイチエム)」全24室が、名古屋市千種区星が丘に竣工しました。このデザイナーズ学生マンションは、株式会社成瀬・猪熊建築設計事務所が全体設計を担い、愛知淑徳大学 創造表現学部 創造表現学科の間宮晨一千先生および椋山女学園大学 生活科学部 生活環境デザイン学科の梶本雅好先生の研究室で学ぶ4年生7名が、総戸数24室のうち4室の内装デザインを研究課題として手掛けました。現役の学生がデザインに関わったこのプロジェクトの経緯とその成果について、猪熊純氏、間宮晨一千先生、梶本雅好先生と、事業者の株式会社SLASH代表の高木オーナーにお集まりいただき、株式会社学生情報センター 名古屋営業開発担当 安藤孝彰を交えて座談会を開催しました。

(ファシリテーター:株式会社学生情報センター 経営企画部 広報室長 寺田律子)

ますます、学生のために。これからの社会のために。

Nasic ナジック



椋山女学園大学
生活科学部 生活環境デザイン学科

准教授 梶本雅好



成瀬・猪熊建築設計事務所

猪熊 純



愛知淑徳大学
創造表現学部 創造表現学科
建築・インテリアデザイン専攻

特任講師 間宮晨一千

寺田 皆様の多大なご尽力とご協力により、02/HMは竣工を迎え、マスコミ向け内覧会を開催することができました。参加した両大学の学生は、難しい内装デザインに取り組んだこともさることながら、プレゼンに向けての準備段階から内覧会にかけても、自分たちの成長を自覚したと語っていたことに驚きました。このプロジェクトには大きな成果があったと感じています。学生を間近でご覧になっていた皆様のお考えなどをお聞かせください。まず、今回のプロジェクトが実現した経緯について教えてください。

猪熊 学生マンションなのだから、本当は大学生が実際のデザインに関われたらよいのではと、事業者（オーナー）である株式会社SLASH代表の高木氏と半ば冗談混じりで話していたのがきっかけです。その時点では実現できるのかわかりませんでしたが、とにかく声だけでもかけてみよう、と、1年ほど前に椋山女学園大学生活科学部 生活環境デザイン学科の梶本雅好先生と、愛知淑徳大学 創造表現学部 創造表現学科の間宮晨一千先生にご連絡したのです。お二人ともすぐさま前向きに検討していただき、両研究室で学ぶ4年生の7名に、研究課題として各大学2室の内装デザインを手掛けてもらうことになりました。

梶本 猪熊さんが設計を担当された物件に学生が関われるのは

とても貴重な機会だと思いました。しかも大学からすぐ近くのためですから、ぜひ参加したいとお伝えしました。当大学の生活環境デザイン学科は建築だけでなく、インテリアやプロダクトも学んでいるので、内装デザインに深い興味を持っている学生は喜んで参加してくれるのではと思いました。さっそく学生に話したところ、やってみたくてすぐに声が上がりました。

猪熊 はじめに打診した時には、内装に興味を持ってくれる学生がいるのだろうか不安でしたが、話していくうちに、むしろ内装が専門の学生も多数いると聞いて安心しました。



間宮 当大学の創造表現学科には建築・インテリアデザイン専攻もあるので、内装デザインに興味を持っている学生も多いのです。しかし、自分たちがリアルに体験できる機会はなかなかありません。この話をいただいてぜひ参加させてほしいと即答しました。学生も前のめりになって、やりたいと言ってくれました。ちょうど3年生から4年生に向けて、自分のポートフォリオを考えていた時期でもありますから、タイミングよく素晴らしい体験ができました。こうしたチャンスはこれまでありませんし、参加した学生たちは自分の成果に対する直接の反応をいただけたことにとっても喜んでます。



寺田 間宮先生のおっしゃるとおり、今回は将来のことを考える3年生の後半から4年生にかけて、という時期の面でもとてもよかったのです。また、実務的に取り組めたこともあり、学生にとっては有意義な体験になったのではないのでしょうか。

梶本 設計実習の課題などで、インテリアコーディネートの提案を考えるという機会はあるのですが、今回のように床材や壁材まで自分たちで選べるほど、内装全体に深く関われる機会は学生にとってめったにありません。

猪熊 やはり学生たちが1 / 1でリアルに参加できるチャンスはなかなかないのです。今回参加したのはインテリアデザインを学んでいる学生が多いのですか。

梶本 やはりそうですね。建物そのものではなく内装に興味を持っている学生はたくさんいます。こうした学生にはまたとない機会だったと思います。入居者の方が実際に生活する空間づくりに関わるといって大きな喜びを感じていたようです。就職の面接でも胸を張って話せる体験ができたと思います。

猪熊 本当に興味を持っている学生だから上手だった、ということが結果からもよく分かります。愛知淑徳大の今回参加した学生もインテリアデザイン系ですか。

間宮 そうですね。当大学から参加したのは、少し商業寄りで店舗の内装に関わる仕事をしたいという学生などです。

猪熊 小物の選び方などはすごいなと思いました。

間宮 逆に猪熊さんは大変だったのではないのでしょうか。学生たちのレスポンスは社会人と違って遅れがちですし、ご迷惑をお掛けしたのではないかと思います。

猪熊 そんなに大変なことはありませんでしたよ。両先生がきちんとサポートしていただいた結果だと思います。マスコミからの反響も大きかったですね。

寺田 内覧会に参加して、マスコミからの取材を受けるということは、学生にとって、とても貴重な体験ですね。臆せずに堂々と答えているのが印象的でした。

間宮 そうですね。学生がインタビューを受けるのは心配だったのですが、はきはきと、きちんと答えられていて安心しました。

梶本 深く関わっているので、完成したデザインについて自分の言葉でしゃべれるのだと思います。なぜそうしたのかという答えをきちんと自分たちで持っているのです。

間宮 今回のスキームでは設計サイドの時間も必要でしたし、事業者の寛大なご理解がないと、なかなか学生の提案を受け入れていただけなかったのではないかと思います。フランクな関係がスムーズに進められた要因ではないのでしょうか。

猪熊 オーナーには、基本は任せているので大丈夫です、信じていますと言っていました。こうしたスタンスで受け止めていただけたからこそ、気持ちの良い結果が得られたのだと思います。それが学生たちにとって、楽しく、自分たちの思いを実現するという方向につながったのだと思います。



寺田 その通りですね。高木オーナーと猪熊さんとの強い信頼関係がよい結果を導いたのだと思います。もし、関係性にほころびがあったら、今回のプロジェクトは成功できなかったかもしれません。

安藤 オーナー様のご理解をいただければ成り立たなかつただろうと思います。私は学生マンションの企画・営業に数多く携わってきましたが、今回のプロジェクトはオーナー様のご理解と、先生方のご協力をいただけたからこそ、実現できたのではないかと思います。また、常日頃からの大学と当社との関係性も推し進めることにつながったと考えています。できましたら今後また、同様に皆様と次の学生マンションを手掛けたいと思っています。今回の部屋に入居するのは18歳で初めて一人暮らしをする学生です。現役の学生自らが「自分たちの住みたい部屋」としてデザインしたので、きっと気に入ってもらえると思います。



寺田 猪熊さんが設計されたコンセプトに、学生のデザインはどのようにマッチングしたのでしょうか。

猪熊 今回は少し部屋を不定形に設計しています。これは天空率をかわすための技術でもあります。この空間をうまく生かすようにバルコニーを半分設置して、窓際の明るいスペースを作りました。ベッドを置くだらうと想定するスペースにはあえて窓を作らず、夜間は落ち着いて、朝にはすぐそばから光が入ってくるようにしました。こうした空間づくりによって、ワンルームでありながら3つくらいのスペースを生み出そうという考えです。窓際には机が置けるよう想定しています。学生はこうした考えをうまく生かしてデザインしてくれました。密かに「うまくいったな」と感じています。

梶本 たくさんのやりたいことと、実現できることを考えて、イメージは比較的早めにまとまっていたと思います。あまり口を出すと、僕らが考えそうなデザインになってしまうので、学生の提案を生か

すようにしました。学生からは次から次に、新しいアイデアが生まれてきました。

猪熊 悩んでも何も出てこない、という状況ではなかったですね。

梶本 1つの部屋にすべてを集約するのではなく、2つの部屋のデザインを手掛けられたのもよかったと思います。しかも、2部屋を対比して作為的に差異を作るのではなく、ほぼ同時進行でスムーズに作り上げていきました。

間宮 考えが似ている2組がそれぞれの部屋を作れたのもよかったのだと思います。一人の出した意見に対して、すぐに意気投合しながらデザインを考えていました。もし、4人で1部屋となると、考えがまとまらなかったかもしれません。

猪熊 実は世代が上になるほど、設計者は自分の個性を主張しがちなのです。複数意見を出しながら、結果としてうまくまとまったデザインが作り上げられたのは現代的であり、すごいことだと思います。ケンカにはならなかったですね。

梶本 中心となるひとつの考えに対して、意見を出し合っ、よりよいものにまとめていくという行動が見られました。悩むところは3人がしっかりと考えて話し合い、それぞれが納得して解決していきました。

間宮 基本的には学生を見守っているというスタンスでした。自分たちが思ったことをきちんとイメージして、その通りのものが実現できるか、というところに気を配りました。コンビを組んだ2人の考えを一致させてやりきらないと、後味が悪くなるのではと思いましたが、良い結果になってホッとしています。



学生情報センター
安藤孝彰



株式会社SLASH
代表 高木俊輔オーナー

安藤 今回のケースをよい事例として、これからも学生主体で事業を進めていきたいと思っています。先輩が内装デザインに参加した部屋に後輩が入居するという流れにも期待しています。私どもは常に大学と連携を図りながら、学生マンションへの入居や生活をサポートしています。今回は両大学のエリアに位置する物件です。先輩の作った部屋として学生や親御さんを案内するのが楽しみです。また、当社の展開するキャリア支援にもつなげられるとよいと思っています。

猪熊 学生の皆さんがデザインした4室がまさきに契約されて、他の部屋がなかなか埋まらなかったらと、一般フロアを設計した我々は少し心配なくらい、学生部屋は良いものになりましたね。

寺田 学生にとって、ほどよい緊張感と任されているという責任感が、主体的な行動に働きかけて大きな成果につながったのだと思います。見守るスタンスをとりつつ、学生のモチベーションを上げ、維持するための接し方なども興味深く感じます。



猪熊 おふたりの先生が学生の自主性を尊重したことが、学生自身のモチベーションを上げるにつながったのではないのでしょうか。通常の授業や課題でしたら、もっと積極的に指導をしたのではないかと思います。今回の場合、学生が「やらされている」と思ってしまうとモチベーションは下がってしまいます。学生のやりたいという気持ちをどれだけ持続させられるか、こちらの反応次第だと気にかけていました。

間宮 学生はやりたいと、主体的にかかわってくれました。ゼミの学生なので、それぞれのポテンシャルも理解していますし、言ったことに対しては実行してくれるだろうという信頼がありました。

梶本 その部分はとても大きいですね。きちんとやってくれるだろうという学生が参加してくれましたから、大切なポイントだけを押さ

えればよいという考えでした。安心して見守れる学生が集まったことで、心配はありませんでした。今回のプロジェクトを通じて、学生が本来持っているものを次第に発揮できるようになっていったことを実感しました。

間宮 メディア向け内覧会での学生の対応を見て、大きな成長と変化を感じました。社会人の方々からのいろいろな質問を受けて、自分たちのやってきたことをきちんと答えられたことに驚きを感じました。この体験が学生の今後の大きな力になると思います。

寺田 このようなプロジェクトが実施でき、大きな成果を上げることができたのは、やはりオーナー様のご理解があってこそだと思います。

高木 猪熊さんや安藤さんをはじめ、皆さんが、このような規模の物件ではあり得ないほど、およそ5年間の長期にわたって頑張っていたからだと思います。きっと、終わりのない仕事に取り組まれていたというお気持ちだったのではないのでしょうか。昨年頃からのスピーディーな進展に驚いています。猪熊さんに設計をお願いしたのは、なるべくなら変わったことをしようという思いでした。ですから、普通のことをしてはダメですと、ずっとお伝えしてきました。時間はかかりましたが、すばらしいデザイナーズ学生マンションが建ってホッとしているところです。

猪熊 このプロジェクトのスタートは学生に自由にやってもらいたいということでした。設計のプロからすると、少しタブー気味な提案も受け入れて、とにかくやってみようと思って進めていきました。専門的なデザイン論や設計理論ではなく、みんなが楽しく喜んでやろう考えです。その結果として、学生の後輩たちが住みたいと思うデザインができあがりました。果たして、我々に足りないものはなんだろうか、と改めて考えさせられます。本来はプロのほうが、技が多彩で、何でもできなければいけないのですが、こちらの幅が狭いと思わされる部分もありました。私も学生から大きな刺激をもらいました。

寺田 今後は当社で、管理運営をしっかりとやっていきたいと思っています。また、このプロジェクトの成果をより多くの方々にお伝えしていきたいと考えています。本日はありがとうございました。

内装デザインに参加した学生の声

愛知淑徳大学 創造表現学部 創造表現学科の学生

「開放感のある窓際のスペースを生かそうと、デスクを置いて明るさをカットしながら落ち着いて集中して勉強できる空間づくりを考えました」

「壁や家具を落ち着いたシンプルな配色にして、入居の方が置きたい本やグリーンが映えるようにデザインしました」

「たくさんのカタログから選ぶのが大変でした。小さなサンプルを取り寄せて、実際にはどうなるのかを想像しながら検討しました」

「設計会社に就職が決まっているので、プレゼンのポイントや説明の仕方が身に付きました」

「設計事務所や施主の方とのスケジュールを遂行していく方法が分かってきました。自分たちのデザインを実現できる、貴重な機会をいただけたと思います」

椋山女学園大学 生活科学部 生活環境デザイン学科の学生

「全体的にはかわいい雰囲気ですが、廊下やカーテンには緑をあしらって、かわいくなりすぎないようにこだわりました」

「壁のデザインに力を入れました。通常なら壁一面にひとつの素材ですが、ネイビーと白の色違いの素材を使い、カーテンの配色とも連動させました。世界に一つしかない部屋を目指しました」

「窓まわりの空間をどうするか、カープしているカーテンレールにどのようなカーテンがいいかをみんなで悩みました」

「住んだ方にとって、自分の家が一番好きという空間になってほしいです。友達や家族を呼んでいろいろな人に見てもらいたいです」

「模型に壁紙を当ててシミュレーションしました。みんなで想像していたよりもよいものができたことがとてもうれしいです。ドアを開けた瞬間、盛り上がりました」



02/HM(ゼロツーエイチエム)の物件概要

住 所 : 愛知県名古屋市千種区星が丘元町14番71号
交 通 : 名古屋市営地下鉄 東山線「星ヶ丘」駅より徒歩2分
構造規模 : 鉄筋コンクリート造 8 階建 全24室
専有面積 : 24.24㎡~27.13㎡
竣 工 : 2020年9月
事 業 者 : 株式会社SLASH
設 計 : 成瀬・猪熊建築設計事務所
施 工 : 株式会社杉本組
管理運営 : 株式会社学生情報センター



5